

---

# 経営学部教授 海老澤栄一先生を送る

経営学部長 後 藤 伸

---

本学部教授海老澤栄一（えびざわ えいいち）先生は、2012年3月末日をもって神奈川大学を定年退職されます。経営学部『国際経営論集』第45号を海老澤先生の退職記念号として上梓するとともに、この巻頭言において海老澤先生の研究教育業績等を簡単ながらご紹介することで、学部一同よりの惜別の辞とさせていただきます。

海老澤先生は、1965年3月に神奈川大学法経学部貿易学科をご卒業されたあと、シェル石油会社に就職されました。つづいて1969年からは学校法人東京電子専門学校に勤められ、1978年3月まで在籍されています。この間の1972年から1978年まで早稲田大学大学院商学研究科の博士前期課程および博士後期課程に進まれ、1974年3月には商学修士の学位を取得されています。そして1978年4月に神奈川大学短期大学部の専任講師として赴任され、母校で教鞭をとられることになります。以降、助教授（1981年4月就任）、教授（1987年4月就任）となられ、この間の1982年9月より1年間、米オレゴン大学にて在外研究に就かれております。

神奈川大学経営学部とのかかわりは、1989年4月に平塚キャンパス（現湘南ひらつかキャンパス・SHC）が開設されると同時に経営学担当教員の一人として赴任されたときに始まります。ご専門の経営組織論、経営管理論といった経営学の枢要な位置をしめるとともに多人数の受講者をかかえる科目を講義される一方で、文章表現法など大学カリキュラムとしてはその当時まだまだ新規な科目を率先してご担当くださいました。文章表現法を基礎演習Ⅰ（現在のFYS）と連動させて、文章添削の指導にあたられたのを昨日のように覚えております。長年の多人数教室の運営をされた経験から授業に工夫（双方向授業、ミニ質問と回答、グループ発表など）を凝らされてきたことは、2011年度に新設された神奈川大学のグッド・ティーチャー賞を受賞されたことから窺い知ることができます。

学部教育とあわせて、1993年に経営学研究科が開設されると、研究科教授に就任され、院生の指導にあたってられました。その優れた指導は、これまで博士課程の学位取得者を継続的に輩出させていることから明らかと思われます。また海老澤先生ご自身も、2001年7月には中央大学から経営学博士の学位を取得されています。先生の研究熱心は誰しも知るところであり、書かれた著作は単著・共著併せて25冊を数え、論文にいたっては枚挙にいとまがないほどであります。また学会活動では自ら設立した学会もあるように、活発に活動されております。日本経営診断学会では長年中心的なメンバーであり、そのほか経営情報学会、日本経営教育学会などで代表幹事や理事に就かれております。さらにSHCがある平塚市では商工会議所の経営革新講座を長年担当されるほか、社団法人日本情報システムユーザー協会が主催する各種委員会にも参加されるなど、その社会的活動も幅広く展開されています。

研究教育のみならず、海老澤先生は学内業務にも積極的に関わってられました。1998年4月から3年間、神奈川大学大学院経営学研究科の委員長を勤められたのをはじめ、2001年4月より2期4年

間経営学部長の職に就き、さらに2009年4月より現在にいたるまで神奈川大学国際経営研究所所長に赴任されるなど、要職を歴任されております。学部長職にあったとき、経営学部 of 現行カリキュラムの構築に尽力されたことは記憶に新しいところです。

ご紹介したとおり、海老澤先生は経営学部創設以来のメンバーの一人であり、現在の学部の学風を形作ってこられた有力メンバーの一人であります。創設間もない時期、それぞれ異なるバックグラウンドをもつ教員の融和にも配慮されました。その代表的なものが、教員有志、というか左党のメンバーを集めて月に1回の割合で開いた懇親会でした。名づけて「えび亭」という飲み会は、後に教員メンバーとなった私にとって新設学部での新人研修としては格好の場であったことを思い出します。この「えび亭」に始まり、海老澤先生はその担当科目の一つである組織論の専門家として、じつにさまざまな企画をとおして地域に根ざした人びとを組織化する人であると申せます。ここでは具体的な名称は控えさせていただきますが、平塚市だけをとっても学生、教員、社会人と幅広い層にわたり、重層的な集団を組織化し、融和させ、あらたな発展や進化を推し進めてされました。まさに、隔意なきコミュニケーションの場を築き上げる名工と称せられましょう。

世間的に名人、達人といわれる人が少なくなるなか、まことに残念ではありますが、先生は定年という年齢制限のために大学の運営からは手を引かれます。しかし、海老澤先生には研究・教育を含めいろいろな場面において引きつづきご指導とご鞭撻をいただけてものと期待しております。最後になりましたが、お身体を大切になされつつ、先生の一層のご活躍をこころから祈念して擱筆するしだいです。



海老澤 栄一 教授

# 定年退職教授の略歴および業績一覧

## 海老澤 栄一教授

(昭和18年3月28日生)

### [学 歴]

昭和40年 3 月 神奈川大学 法経学部貿易学科 卒業  
昭和47年 4 月 早稲田大学大学院商学研究科博士前期課程 入学  
昭和49年 3 月 同課程 終了 商学修士  
昭和49年 4 月 早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程 入学  
昭和53年 3 月 同課程 満期単位取得 中途退学  
平成13年 7 月 中央大学 経営学博士

### [職 歴]

昭和40年 4 月 シエル石油 株式会社 (昭和44年 3 月まで)  
昭和44年 4 月 学校法人 東京電子専門学校 (昭和53年 3 月まで)  
昭和53年 4 月 神奈川大学 短期大学部 専任講師 就任  
昭和56年 4 月 神奈川大学 短期大学部 助教授 就任  
昭和57年 9 月 アメリカ・オレゴン大学在外研究 (昭和58年8月まで)  
昭和62年 4 月 神奈川大学 短期大学部 教授 就任  
平成 1 年 4 月 神奈川大学 経営学部 教授 就任  
平成 5 年 4 月 神奈川大学 大学院経営学研究科 教授 就任  
平成10年 4 月 神奈川大学 大学院研究科 委員長 就任 (平成13年 3 月まで)  
平成13年 4 月 神奈川大学 経営学部 学部長 就任 (平成17年 3 月まで)  
平成21年 4 月 神奈川大学 国際経営研究所 所長 就任 (現在に至る)

### [学会及び社会における活動等]

#### (学会活動)

平成 2 年 5 月 経営情報学会代表幹事 (平成 4 年 4 月まで)  
平成 4 年 5 月 経営情報学会副会長 (平成 6 年 4 月まで)  
平成16年 9 月 日本経営診断学会会長 (平成19年 8 月まで)  
平成16年11月 社団法人中小企業診断協会主催 中小企業経営診断シンポジウム審査委員会委員長 (平成19年10月まで)  
平成17年 6 月 (社)中小企業診断協会理事就任 (平成19年10月まで)  
平成18年 6 月 日本経営教育学会監事および機関誌編集委員 (平成21年 5 月まで)  
平成19年 9 月 日本経営診断学会顧問 (現在に至る)  
平成21年 7 月 日本経営教育学会理事 (平成24年 6 月まで)

(社会活動)

平成1年4月 平塚商工会議所中小企業経営相談所主宰経営革新講座担当(現在に至る)

平成13年4月 社団法人日本情報システムユーザー協会主催 ITガバナンス委員会委員長  
(平成15年3月まで)

平成15年4月 社団法人日本情報システムユーザー協会主催 プライバシーマーク審査委員会委員長  
(現在に至る)

[業績]

(著書)

経営におけるEDPシステムの分析と設計	単 著	昭和49年5月	東栄堂(A5版、425 ページ)
経営管理の思想家たち	共 著	昭和49年10月	ダイヤモンド社 執筆分担分は、XIV(203~219ページ)。 編著者:車戸實
情報システム設計の基礎	単 著	昭和51年4月	八千代出版(A4版、 213ページ)
経営学総論	共 著	昭和52年5月	早稲田大学出版部 執筆分担分は、第I編第3章(75~108ペー ジ)。 編著者:車戸實
コンピュータ情報処理論	共 著	昭和55年4月	白桃書房 執筆分担分は、第5、第6章(89~112、 113~132ページ)。 編著者:前川良博
現代オフィス・オートメーション—甦るオフィス・システムの指針	共 著	昭和55年5月	日本経営出版会 執筆分担分は、第I編第3章(75~108ペー ジ)。 編著者:涌田宏昭
OA教科書	共 著	昭和59年6月	有斐閣 執筆分担分は、IV-5(289~312ページ)。
高度情報社会におけるオフィス・システム	共 著	昭和60年5月	日本経営出版会 分担執筆分は第II部8章(243~256ページ) 編集委員長:黒川順二
情報・通信技術の進展が2001年の経営にもたらすインパクト	共 著	昭和61年8月	日本経営出版会 執筆分担分は、第2、第4章2節(67~79、 169~200ページ)。 共著者:石原善太郎、海老澤栄一、島田達 巳、高原康彦、遠山暁
例解 経営情報管理	共 著	昭和63年7月	同友館(A5版、 239ページ) 執筆分担分は、第1、第4章(3~26、63~ 74ページ)。

情報資源管理―統合システム構築を目指して―

共 著 平成1年6月 日刊工業新聞社  
(A5版、222ページ)

執筆分担分は、まえがき、第1、第2章  
(1～3、1～24、25～62ページ)。

戦略的情報システム―構築と展開―

共編著 平成1年11月 日科技連

執筆分担分は、第1章(1～61ページ)。  
共編著者：島田達巳、海老澤栄一(A5版、  
294ページ)。

組織進化論

単 著 平成2年10月 白桃書房(A5版、  
281ページ)

2001年情報システム未来形―これからの企業経営と情報活用

監 修 平成5年9月 日刊工業新聞社  
NTTデータ通信(株)、(株)NTTデータ経営研  
究所編(A5版、179ページ)。

統合化情報システム

単編者 平成6年3月 日科技連  
(A5版、296ページ)

執筆担当分は、第1、第2、第6章(1～42、  
43～108、261～287ページ)。

小論文の設計―リズムのある文章を書く骨(コツ)

単 著 平成8年4月 同友館  
(A5版、189ページ)

生命力のある組織

―海図のない航路の行動指針―

単 著 平成10年9月 中央経済社(A5版、  
201ページ)

智恵が出る組織―創造性創出のプロセス―

共 著 平成11年4月 同友館(A5版、  
193ページ)

執筆分担分は、第1、第3、第5章(3～36、  
79～104、145～180ページ)。

地球村時代の経営管理

―分けることから補い合うことへの道筋―

単 著 平成12年5月 文真堂(A5版、  
362ページ)

経済価値を超えて―健全な経営行動の提案

単編著 平成13年2月 同友館(A5版、  
230ページ)

執筆担当分はプロローグ、第5章(1～13、  
169～202ページ)。

経営組織の基本問題

共 著 平成15年7月 八千代出版  
執筆担当分、第2章(25～53ページ)。  
編著者：松本芳男

グローバルな時代の経営革新

共 著 平成15年10月 中央大学出版部  
執筆担当分、第2章(35～57ページ)。  
編著者：林正樹、遠山暁

- まちづくり・ひとづくり 提言集 Vol.3 共 著 平成19年 3月  
十勝場所と環境ラボラトリー  
執筆担当分、第2章（11～20ページ）。
- 魅力ある経営—パラドックスの効用 編 著 平成19年10月 学文社（A5版、207  
+ 8 ページ）  
執筆担当分、第4章（105～142ページ）。  
はじめに、オーバチュアは執筆分担区分なし（i—v、1—28ページ）。
- 新・挑戦する独創企業  
—なぜ、この会社はこだわり続けるのか！— 共 著 平成20年 8月 プレジデント社  
執筆担当分、第7章（321～337ページ）。  
編著者：浜銀総合研究所 経営コンサルティング部
- 講座/経営教育 3 経営教育論 共 著 平成21年 4月 中央経済社  
執筆担当分、第7章（118～133ページ）。  
編著者：日本経営教育学会編、編集代表  
小椋康宏
- （翻訳書）  
バーゲルマン、R.A.、セイルズ、L.R.著 企業内イノベーション—社内ベンチャー成功への戦略組  
織化と管理技法 共 訳 昭和62年 8月 ソーテック  
執筆の分担区分はなし。  
監訳：小林肇
- （論 文）  
コンピュータ・テクノロジーと組織変更—分散議論との関連で— 単 著 昭和53年11月 商経論叢  
第14巻第2号 神奈川大学 経済貿易研究所  
（105～131ページ）
- 放送情報システムの課題—社会情報システムの模索— 単 著 昭和54年 7月 商経論叢  
第15巻第1号 神奈川大学 経済貿易研究所  
（47～96ページ）
- ユーザーとEDP成員との意識インターフェイス 単 著 昭和55年 1月 情報科学論集  
第 9 号 東洋大学付属電子計算機センター  
（25～43ページ）
- 組織開発論にかんする批判的一考察 単 著 昭和55年12月 情報科学論集  
第11号 東洋大学付属電子計算機センター  
（31～52ページ）
- 組織構造パラダイムと分散 単 著 昭和56年 9月 OFFICE AUTOMATION  
Vo.2, No.2 オフィス・オートメーション学会  
（66～70）

事務機能のフレームワークと事務の測定・評価基準にかんする一試論

単 著 昭和56年12月 情報科学論集  
第12号 東洋大学附属電子計算機センター  
(39～55ページ)

OA技術に対する組織反応モデルの模索

単 著 昭和59年11月 組織科学  
Vol.18, No.3 組織学会  
(23～32ページ)

Office Automation Systems and Organizational Responses of Them: An Application of organizational Cybernetics

単 著 昭和60年1月 商経論叢  
第20巻第2号 神奈川大学 経済貿易研究所  
(pp. 1～31)

組織タイプの違いからみたOAシステムの問題構造特性

単 著 昭和60年12月 情報科学論集  
第15号 東洋大学附属情報科学研究教育センター  
(39～55ページ)

マネジメント職能のプロセス進化論的検討—相補性原理を中心として—

単 著 平成2年3月 国際経営論集  
No.1 神奈川大学経営学部  
(15～54ページ)

MIS論パラダイム再構の試み—マネジメントの意思決定特性の視点から—

単 著 平成2年11月 経営情報学会誌  
Vol.1, No.1 経営情報学会  
(1～22ページ)

巻頭論文—研究対象としての経営情報論

単 著 平成3年4月 経営情報学会誌  
Vol.2, No.1 経営情報学会  
(1～10ページ)

巻頭論文—創造性をはぐくむ統合の考え方

単 著 平成3年11月 TOSHIBA I  
No. 11 東芝  
(3～6ページ)

21世紀へ向けての情報戦略

単 著 平成4年1月 企業経営  
No. 37 (財)企業経営研究所  
(10～13ページ)

経営のグローバル化戦略—経営理念の視点から—

単 著 平成5年12月 国際経営フォーラム  
第5号 神奈川大学 国際経営研究所  
(186～203ページ)

教育改革への挑戦

共 著 平成5年12月 国際経営フォーラム  
第5号 神奈川大学 国際経営研究所  
(118～184ページ) 海老澤 栄一執筆担当  
(118～128ページ) 共同執筆者：榎本誠、  
照屋行雄



超国籍企業の分析視点—その概念化をめざして—

単 著 平成8年3月 国際経営フォーラム  
第7号 神奈川大学 国際経営研究所  
(7-30ページ)

いま、望まれる共生のマネジメント

単 著 平成8年7月 SANNOクォーターリー  
第4号 産能大学  
(19～21ページ)

組織と環境との相互共鳴行動—有機システム論の援用を意識して—

単 著 平成8年9月 組織科学  
Vol.30 No.1 組織学会  
(36～44ページ)

診断パラダイムの見直しと提案—健全性概念を中心に—

単 著 平成8年12月 日本経営診断学会年報  
第28集 日本経営診断学会  
(3～13ページ)

生命力あるヒト・組織のイメージ

単 著 平成9年5月 Best Partner  
第9巻第5号 浜銀総合研究所  
(44～49ページ)

戦略同盟の枠組みの検討—情報ネットワークを意識して—

単 著 平成9年6月 経営情報学会誌  
Vol. 6 No.1 経営情報学会  
(1～18ページ)

組織有効性の要諦—地球村時代の企業行動を意識して

単 著 平成10年3月 神奈川大学  
創立七十周年記念論文集(143～159ページ)

組織間連結行動におけるネットワーキングビジネスの意味—“関係づけ”理論を援用して—

単 著 平成10年3月 国際経営論集  
No. 15 神奈川大学 経営学部  
(1～24ページ)

生命力のある組織の要諦

単 著 平成10年5月 商学論纂  
第39巻5・6号 中央大学 商学研究会  
(195～236ページ)

組織能力を支える個人の智恵

単 著 平成11年3月 国際経営論集  
第16・17合併号 神奈川大学経営学部  
(135-162ページ)

経営管理の本質に関する研究—生命力のある組織の要諦

単 著 平成11年2月 私学研修  
No. 151・152 私学研修福祉会  
(51-63ページ)

地球村時代の企業と地域経営のあり方

共編著 平成11年3月 国際経営研究所  
執筆担当分Ⅰ(3～4ページ)、Ⅱ(4～5ページ)、Ⅲ(5-7ページ)、Ⅳ—Ⅰ(7-17ページ)、Ⅴ(44～45ページ)

神奈川大学 国際経営研究所 地球村時代共同研究プロジェクト

リーダー：海老澤栄一、メンバー：後藤  
伸、菅原晴之、照屋行雄、林悦子

組織の健全性（共同研究プロジェクト） 共 著 平成12年10月 日本経営診断学会年報  
第28集 日本経営診断学会  
(201～212ページ)  
執筆の分担区分はなし

過程指向の組織行動―多様な選択肢がもつ自由の意味  
単 著 平成13年4月 OA  
Vol. 22 No. 1 (第93号)  
オフィス・オートメーション学会  
(72～77ページ)

情報社会と経営資源―情報ネットワークを基盤に据えて―  
単 著 平成14年3月 国際経営論集  
第23号 神奈川大学 経営学部  
(121～137ページ)

生命体としての企業の存続意義―価値パラダイムの視点から―  
単 著 平成14年3月 商学論纂  
第43巻 第6号 中央大学 商学研究会  
(59～77ページ)

目的合理性を超えた組織の経営管理 ―プロセス指向を意識して―  
単 著 平成14年12月 企業研究  
第1号 中央大学 企業研究所  
(107～126ページ)

組織の効率性、有効性、そして…―排除から統合への途―  
単 著 平成14年12月 OA  
Vol.22 No.4  
オフィス・オートメーション学会  
(39～45ページ)

ビジネス概念の見直しと公共性―人間観の視点から―  
単 著 平成15年3月 ビジネス実務論集  
第21号 ビジネス実務学会  
(103～109ページ)

長期存続を支える組織有効性と情報特性 単 著 平成15年12月 OA  
Vol.24 No.3  
オフィス・オートメーション学会  
(95～98ページ)

循環型社会における経営資源のあり方―資源専有・専用から共有・共用への途―  
単 著 平成16年3月 国際経営論集  
第27号 神奈川大学 経営学部  
(237～251ページ)

診断の対象としての「価値」―経済価値を超えて―  
単 著 平成16年10月 日本経営診断学会論集

- 第4号 日本経営診断学会  
(170～181ページ)  
グローバル化時代における非グローバル化現象とその超越の試み—複合科学からの提案—  
単 著 平成17年3月 企業研究  
第6号 中央大学 企業研究所  
(17～30ページ)  
コーポレート・ガバナンスの新展開 共 著 平成18年3月 Project Paper  
No. 15 神奈川大学 国際経営研究所  
執筆担当第1章、第5章 (3～28、85～98ページ)  
プロジェクト・リーダー：後藤伸  
組織行動と有機的に連動したリーダーシップ特性—提案型動的モデルの提示—  
単 著 平成19年6月 国際経営フォーラム  
No. 18 神奈川大学 国際経営研究所  
(1～26ページ)  
個人と組織との相互学習行動—もう一人の自分探索と共同開拓の試み—  
単 著 平成20年2月 企業研究  
第12号 中央大学 企業研究所  
(105～115ページ)  
教育と学習との共存の意義—その固有の役割と相互協働の仕組み—  
単 著 平成20年10月 経営教育研究  
Vol. 11 No. 2号 経営教育学会  
(63～79ページ)  
地域経営の枠組みとその主体—連帯性を意識して—  
単 著 平成21年7月 国際経営フォーラム  
No. 20 神奈川大学 国際経営研究所  
(1～20ページ)  
知識社会におけるマネジメント—P. F. ドラッカーに学ぶ—  
共 著 平成22年3月 Project Paper  
No. 19 神奈川大学 国際経営研究所  
執筆担当 第2章、第5章(37～58、109～132ページ)  
プロジェクト・リーダー：後藤伸  
有限世界での経営学の役割—資源を“もつ”“つくる”“つかう”ことの意味再考—  
平成23年7月 国際経営フォーラム  
No. 22 神奈川大学 経営学部  
(59～91ページ)  
経営における“つながり”の機能—その対象、現実、方向—  
単 著 平成24年1月 経営教育研究  
Vol. 15 No. 1 日本マネジメント学会  
(17～28ページ)

Heading for Building the Cumulative Society in Seamless Global Age:  
A Symbiotic Approach of Reactive and Proactive Movements

共 同      May 2012   E-Trade Review  
Vol. 10, No.2 Chung-Ang University  
Korea E-Trade Research  
Institute  
(pp. 157～172)  
co-author: Eiichi Ebizawa,  
Young-Chan Lee  
執筆の分担区分はなし。

「経営診断」基礎理論特別研究プロジェクト報告

共 同      平成24年 8 月   日本経営診断学会広報  
第2巻   第1号      経営診断学会  
(26～45ページ)中分担執筆分26～31、33～  
45ページ。  
共同執筆者：海老澤 栄一、湯川恵子

真ではない現実の存在―"排除"しないことの意味とその方法―

単 著      平成25年1月刊行予定   経済系  
第254集   関東学院大学   経済学部  
(1～22ページ) 齊藤毅憲教授退職記念号  
特別寄稿論文

(学会報告)

報告名	発表年月	発表学会
組織内パワーダイナミクスモデルの探索―情報システム体系の変異の視点から―	昭和60年 9 月	日本経営学会   第59回
<i>Neo-management in Inter-organizational OA Network Systems</i>	November 1986	Decision Science Institute

統一論題：組織の情報処理能力に関する分析課題

シンポジウム   司会者：村山元英、齋藤毅憲、パネリスト：前川正雄、糟屋清彦、杉田英一、  
海老澤 栄一  
昭和62年 6 月      日本経営教育学会   第16回  
*Organizational Responsive Abilities for Environmental Changes*

	May 1987	Pan Pacific Conference 4
安藤三郎報告者のコメントータ	平成 2 年 6 月	日本経営教育学会   第21回
「四系列科目における情報教育のあり方」の報告者2名：北沢博、佐藤修のコメントータ	平成 7 年 9 月	四系列教育会議   第12回

統一論題「経営診断の未来に向かって―革新と伝統」

その③「組織の潜在的健全性」	平成 7 年 9 月	日本経営診断学会   第28回
超国籍企業理念モデルの提案	平成 8 年 6 月	組織学会

統一論題「21世紀に向けての経営診断の諸問題

―概念・技法・基準の再検討―」パネル・ディスカッション

平成 9 年11月	日本経営診断学会   第30回
	座長：刀根武晴、米永隆司
	予定討論者： <u>海老澤 栄一</u> 、 濱本泰、出牛正芳

嘉味田朝功報告者のコメンテータ 平成9年11月 日本経営教育学会 第36回

統一論題①「健全な都市組織の道しるべー組織管理からの分析視点を意識してー」

シンポジウム：司会者は工藤秀幸、井沢良智、パネリストは海老澤 栄一、川端大二、南学、高寄昇三、山口篤雄 平成10年 6月 日本経営教育学会 第37回

自由論題報告者2名：野村清、田村隆善の司会

自由論題報告者1チーム2名：野本千秋、飯沼守彦の討論者

自由論題報告「企業診断の新指標ー組織健全性概念を中心にしてー」

健全性研究部会：海老澤 栄一（代表）、奥長弘三、木村憲二、鈴木千種、天明茂、中村正継、森弘子

平成10年11月 日本経営診断学会 第31回

智慧のある組織の機能ー協働による創造性を意識してー

平成11年 6月 組織学会

プロジェクト研究報告：組織の健全性ー経営の主体性・関係性・持続性を意識してー

平成11年11月 日本経営診断学会 第32回

共同研究者：奥長弘三、鈴木千種、天見茂、中村正継、森弘子

*A Proposal of Viable Organizational Behavior:-*

*A New Wave for Corporate Strategy in a Seamless World*

May 31-June 2, 1999 Pan-Pacific Conference 16

自由競争を前提にした市場経済原理にもとづく経営学の功罪ー経営資源所有の視点からー

平成13年 5月 経営学史学会 第8回

*Beyond the Excessive Market-economy Principle:*

*Integrating Contradictory management Thoughts*

May 31-June 2, 2000 Pan-Pacific Conference 17

特別セッション「ロボットの限界・人間の限界ーその二つの調和ー」

座長：遠山暁、涌田宏昭、講演者：横田将生、熊谷卓、コーディネータ：海老澤 栄一、小澤伸光、竹本賢太郎

平成14年10月 オフィス・オートメーション学会  
第45回

制度がもつ意味の再考ー独自性と類似性との連鎖学習を意識してー

平成17年 5月 経営学史学会 第15回

境章報告「コミュニティ作りの実践と課題」コメンテータ

平成17年 5月 オフィス・オートメーション学会  
第50回

東俊之報告「組織変革と組織能力」コメンテータ

平成17年 6月 日本経営教育学会 第50回

ボーダーレス時代の人材のあり方ー地域に根ざしたヒトづくりー

平成17年 7月 浅井学園大学北方圏学術情報センター

統一論題テーマ：人材開発の意味を考えるー目的、主体、対象、方法の視点からー

平成18年10月 日本経営教育学会 第54回

自由論題小澤伸光報告者のコメンテータ

平成19年11月 日本情報経営学会 第55回

自由論題報告者3名：豊澄智巳、中道眞、潜道文子の司会、コメンテータ

平成20年 9月 日本経営学会 第82回

統一論題1「混沌時代の経営行動を支援、促進する羅針盤—制度化の視点から—」

統一論題パネルディスカッション、コーディネータ：吉村孝司、指定討論者：平田光弘、水尾順一、  
報告者：小山修、海老澤 栄一、小椋康宏

平成20年11月 日本経営教育学会 第58回

統一論題「ビジネスモデルの新展開—大競争時代における国際経営情報戦略」パネルディスカッション、コーディネータ

平成21年5月 日本情報経営学会 第58回

パネリスト：立花和義、寺本義也、原田保、塩谷さやか

制度化の視点から

統一論題「進化型ネットワークの構築—源、能力、互惠—」報告者：富田茂、後藤時政、近藤高司、鈴木達夫/辻朋子/新井信裕/田口尚史/小川正博/石塚隆男、6報告 コーディネータ

平成21年9月 日本経営診断学会 第42回

基礎理論特別研究プロジェクト「特別研究プロジェクトの経過報告」

平成22年9月 日本経営診断学会 第43回

統一論題3「企業存続の概念と今日的意義」櫻井克彦報告者のコメンテータ

および統一論題 パネルディスカッション 指定討論者：佐々木利博、松本芳男、海老澤 栄一

平成22年10月 日本経営教育学会 第62回

統一論題報告4「資源を保有すること、活用することの意味—有限世界での構想—」

および統一論題パネルディスカッション

コーディネータ：松村洋平、

パネリスト：相山洋明、上野哲郎、海老澤 栄一、

佐々木利博、野田泰三、松本芳男

平成23年6月 日本経営教育学会 第63回

基礎理論特別研究プロジェクト「特別研究プロジェクトの経過報告」

平成23年9月 日本経営診断学会 第44回

嘉味田朝功報告者のコメンテータ

平成24年5月 日本マネジメント学会 関東部会

統一テーマ「地域資源から価値創造を考える」公開シンポジウム

平成24年9月 日本経営診断学会 第45回

コーディネータ：森永文彦

パネリスト：海老澤 栄一、片岡弘正、佐久間良博、  
杉野邦彦

基調講演：

経営診断に今求められていること

平成24年11月 日本経営診断学会北海道部会

(社会講演活動)

活動名	活動年月	主催団体
経営革新講座：経営の社会性—ヒトづくり、モノづくり、街づくり、〇〇づくり—		シン
ポジウム コーディネータ	平成10年11月	平塚商工会議所中小企業相談所
持続的企業価値向上と組織進化論	平成15年5月	早稲田大学ビジネススクール
ミドルマネジメントのためのネオ・リーダーシップ論	平成16年10月～2005年3月	神奈川大学エクステンション講座
戦略とイノベーション	平成18年10月	(社)日本経営士会
21世紀の生活市民を眺める	平成18年10月	平塚商工会議所

地球村時代の企業経営	平成18年12月	(株)山城経営研究所
企業分析と経営戦略	平成19年 6 月	(社)日本経営士会
新時代の経営戦略	平成19年11月	(社)日本経営士会

ユニークな地域経営に学ぶー今、われわれにできることを探るー

	平成21年 2 月	平塚商工会議所
統一論題：進化型ネットワークの構築ー資源、能力、互恵ー		報告者 6 名の司会、コメンテータ
	平成21年 9 月	日本経営診断学会 第42回全国大会
パネル・ディスカッション「経営学部教育の多様性と国際性ー経営学部における新しい教育領域の開		
発可能性ー」	平成21年 9 月	全国経営学部長会議第 34回
		コーディネータ：林悦子、
		ディスカッサント：宮内ミナミ、
		近藤高司、 <u>海老澤栄一</u>

経営診断は誰のために、何のために？ー“多” 中心思考の勧めー

平成21年10月	(社)中小企業診断協会 北海道支部 創立50周年記念講演
----------	---------------------------------

## [賞 罰]

年月	受賞名	受賞対象
2001年11月	日本経営診断学会研究奨励賞	
		『経済価値を超えてー健全な経営行動の提案』（編）同友館、2001年。
2008年11月	日本経営診断学会優秀賞	
		『魅力ある経営ーパラドックスの効用』（編）学文社、2007年。

# 海老澤栄 — 学び行動鳥瞰図



特徴的なできごと： 実家（食堂） 雇われ縁 資本論、英作文添削 テント担いで山歩き 通信添削 複数の専門学校掛けもち 行政管理庁企画で毎年海外視察 電子工業振興協会（FOS, NOS）専門委員会委員長 オレゴン大学在外研究 戦後情報学会（AMD）創設 経営診断学会会長

分岐点： 第一分岐 第二分岐 第三分岐——第三分岐 第四分岐 第五分岐 第六分岐——第六分岐 第七分岐——第七分岐

興味のあった分野： システム論、有機体論、経営情報論(MIS) 戦略情報システム論 (SIS)  
時流に乗せられ、乗った分野： 情報処理分野、OA 領域、SIS (全国、キャラバン—NTT データ、コンピュータ—カ)  
苦手だけど何とかこなした分野： ソフトウェア、OS、システム分析・設計、流れ図設計  
自己評価（今、考えると筋が通っていると思われること）： ① organ；単純化、一様化、閉鎖系→複雑化、多様化、開放系  
② how → what, why  
③ turning point(岐路) ごとに必ず、お助けマン現れる、そして助けてくれる

ニックネーム： 根茎 (rhizome) 期 混沌(chaos)期 波乗り(surfer)期 共生(symbiosis)期 貢献(contribution)期？  
“徘徊”人生の後展りにお付き合いいただき、ありがとうございます。 2013年1月8日（火） 海老澤栄一記す